編集時の3次元表示の利用

ご存知でしたか?...2次元で編集しているオブジェクトに対して同時に3次元表示を 開き、要素の特定などに利用できます。

編集の際3次元表示を利用することで...

- 3次元表示によって z 値のエラーを即座に特定できます。
- 編集するために正しく要素が選択されているかどうか素早く確認できます。
- ユーザの編集データが3次元において適正かどうかを即座に確かめられます。



オブジェクトの編集作業で3次元表示を使う方法

- 編集用の3次元ベクタを開いて、必要な参照レイヤを追加します。
- 〈空間データエディタ (Spatial Data Editor)〉ウィンドウ (V2012 では〈エディタ−レイヤ マネージャ〉) の [リファ レンス (Reference)] メニューから [3 次元表示ウィンドウを開く (Open 3D View)] を選択します。
- 問題の要素がはっきりと見えるように3次元の視点の位置を調節します。
- 2 次元表示の要素 (複数可)を選択し、3 次元表示で正しく選択したことを確認します。
- 2次元表示で要素を編集して、3次元表示で結果を確認します。

さらに知りたいことがあれば...



以下の入門書をご覧下さい: ベクタ地理データの編集 (Editing Vector Geodata (翻訳)株式会社オープンGIS 東京都墨田区吾妻橋 1-19-14 紀伊国屋ビル 1F Tel: (03)3623-2851 Fax: (03)3623-3025 E-mail: info@opengis.co.jp